

高血圧症通院者100名について 2009年より12年目、2021年の通院継続と中止状況にみる 診療課題の検討

西宮市・広川内科クリニック 広川 恵一（医師）

【共同研究者】木村優美 大浦聖子 広川秋子 渋谷淑子 藤田知子 広川江美子
杉本真知子 新井麻友 法田美津子 宮本京子

【目的】

慢性疾患受診者の通院継続状況を検討し蓄積していくことは日常診療の向上に有用である。この中で高血圧症での通院者の継続と通院中止の背景をみることから外来診療の課題を明らかにする。

【方法】

2009年5月の高血圧症通院者のうち任意抽出した100名(男性38名・女性62名)およびそのうち12年後の2021年3～5月に継続通院中の50名と通院中止の50名を対象に、Ⅰ．通院・中止状況、Ⅱ．中止背景とリスク、Ⅲ．死因、Ⅳ．併発症について検討を行う。

【結果】

Ⅰ．継続通院と中止の状況

継続の50名は男性16名61～94歳(平均78歳)、女性34名57～97歳(平均79歳)、中止の50名は男性22名、女性28名であった。

Ⅱ．中止の背景とリスク

死亡31名(癌・臓器不全・呼吸器感染症など平均年齢85歳)、紹介等転院11名(転居・透析ほか)、施設入所4名(身体虚弱・認知症)、中断4名(アルコール依存・派遣労働ほか)であった。

Ⅲ．死因

死亡31名は男性14名・女性17名平均年齢85歳。うち癌12名(肺癌3名、大腸癌・肝臓癌・膵臓癌各2名、食道癌・胆嚢癌・骨髄腫各1名)82歳。心筋梗塞・心不全8名89歳、呼吸不全2名、腎不全1名85歳、老衰3名94歳。脳出血1名75歳、肺炎1名83歳、不詳(独居死)1名86歳。不詳(転院後)1名76歳。新型コロナウイルス感染症1名90歳であった。

Ⅳ．併発症

100名のうち癌は32名で、大腸癌7名、肺癌5名、胃癌4名、肝癌3名、膵癌2名、直腸癌、食道癌、胆嚢癌、胆管癌、甲状腺癌、多発性骨髄腫、腸骨骨肉腫、子宮癌、卵巣癌、尿管癌、膀胱癌各1名であった。

癌以外では脂質異常症、糖尿病、脂肪肝、脳血管疾患、冠動脈疾患、腎疾患、頸動脈疾患、高尿酸血症、慢性胃炎、食道疾患、胆嚢疾患、呼吸器疾患、甲状腺疾患、前立腺疾患、整形外科的疾患、感覚器障害であった。

【考察】

慢性疾患での病歴は診療の日常診療の目と構えを養うものとなる。とりわけ経過の中で癌、転院・施設入所と併発症を想定して診療を行うことが大切である。